

開催年月日 令和4年6月24日（金）

質問者 民主・道民連合 広田 まゆみ 委員

感染症対策局予防接種担当局長 千葉 修

感染症対策課予防接種担当課長 吉田 亮輔

質問内容	答弁内容
<p><b>一 新型コロナワクチン接種後の副反応等への対応について</b></p> <p>ワクチン接種後の副反応の対応などについて、伺ってまいります。ワクチン接種について、若年世代の接種率をあげる対策を講じるなど、知事から本会議でのご答弁がありました。</p> <p>一方で、ワクチン接種後の副反応の対応に関し、従前より、専門相談ダイヤルを開設するなどの対応もされているようですが、実際に、ワクチン接種後にかかりつけ医など、医療機関に相談しても、適切な対応が受けられない事例などもあると聞いております。</p> <p><b>（一）副反応の状況の把握について</b></p> <p>現在の、副反応の状況の把握についてですけれども、基本的に厚労省が集約し、地域ごとの実数などは、非公表とされているとのことですが、道として、非公表である要因をどのように認識しているのか伺います。また、厚労省が公表しているデータから、ワクチン接種後の副反応の実態を、現時点でどのように把握しているのか伺います。</p> <p><b>（二）道が設置する専門相談ダイヤルの状況について</b></p> <p>次に、道が設置する専門相談ダイヤルの状況について伺います。道として、ワクチン接種スタート直後から、薬剤師会と連携し、専門相談ダイヤルを設置したと承知をしています。</p> <p>副反応に関する地域情報が今ほど、ご答弁されたように、公表されていない中で、専門相談ダイヤルに寄せられる道民のみなさんの声や相談が非常に重要な情報になると、私は考えます。副反応に関する相談件数、及び相談事例などから、道内における副反応の状況や課題を、道としてどのように認識しているのか伺います。</p>	<p><b>【感染症対策課予防接種担当課長】（ワクチン班）</b></p> <p>ワクチン接種後の副反応等についてであります。国では、新型コロナワクチンは、国内での使用実績がないことを踏まえ、ワクチン接種との因果関係が示されていない症状も含め、幅広く評価を行っていく必要があることから、予防接種法の下、医療機関を通じて、副反応を疑う事例を積極的に収集するとともに、収集された事例は、厚生労働省の厚生科学審議会において、専門家による評価を行い、結果を公表するなどして、安全性に関する情報提供などを行うこととされております。</p> <p>こうした専門家による評価結果を踏まえ、現在、国では、全国一括の公表に併せて、ワクチン接種後の副反応について、その接種体制に影響を与えるような重大な懸念は認められていないとしており、道においても、そのように把握・認識をしているところでございます。</p> <p>なお、ワクチンの副反応は、感染症等の疾病の発生状況とは異なり、地域的な差異が生じるものとは考えられにくいことに加え、地域ごとに公表することで、個人の特定に繋がるおそれがあることなどから、国では、地域ごとの発生件数などは公表しない取扱いとしているところでございます。以上でございます。</p> <p><b>【感染症対策課予防接種担当課長】（ワクチン班）</b></p> <p>専門相談等についてであります。道では、ワクチンに関する専門的な相談に対応するため、昨年4月から道薬剤師会に委託して、「北海道新型コロナウイルスワクチン接種相談センター」を開設し、土日祝日を含め対応しているところでございます。</p> <p>この相談センターには、ワクチンの有効性や安全性、副反応等に関する様々な相談が多数寄せられており、昨年度は、一か月平均4千件以上、一年間で、4万9,198件の相談に対応してきたものの、今年度は、4月から5月の一か月平均で、2,293件と減少傾向にある中、昨今の相談では、ワ</p>

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>また、専門相談ダイヤルが、電話とファックスであることから、若い世代が使用しづらいと考えますが、ワクチンの有効性・安全性に関する客観的な情報提供を含めて、SNSなどの対応については検討されているのかあわせて伺います。</p> <p><b>【指摘等】</b>  今ほど、全体の相談件数は減少傾向にあるのですが、やはりその頭痛や倦怠感などが何か月も続くという相談が増えてきており、こうした方々への対応が必要なものであるというふうに、道の認識が示されたわけですが、一方で副反応に対する医療機関の対応状況について伺いたいと思います。</p> <p><b>(三) 副反応に対する医療機関の対応状況について</b>  北海道における新型コロナウイルスワクチン接種後の副反応を疑う症状に対応する専門的な医療機関の体制はどのようになっているのか伺います。また、副反応に関する対応状況は、市町村、道、医師会、相談センターの中では情報共有はされていますが、個別の情報の公表は行わないとされているとのことだが、道として、対応状況についてどのように把握し、課題をどのように認識しているのか伺います。</p> <p>また、基本的には、いきなり専門的な医療機関を受診するのではなく、ワクチンの接種医やかかりつけ医などに相談しながら、そこから紹介をうけるというしくみになっていると私としても理解をしています。ところが実際には、一番その不安な時に、接種医やかかりつけ医に対応してもらえなかったことで、より不安症状が長引いたりするケースも、私の事務所に寄せられている相談事例から散見される訳です。</p> <p>一般に、ワクチン接種後の副反応における因果関係の立証や、救済制度などについては、中央政府段階でもまだまだ大きな課題があることは、認識していますし、医療機関としても消極的な対応にならざるをえない事情も一定の理解はするものの、ワクチン接種後に、体調不安や副反応ではないかと心配になっている方に対し、まずは、丁寧に対応し、寄り添うことは、私としては、医療機関、とりわけ、ワクチン接種医もしくはかかりつけ医の責務であると考えるところです。</p> <p>道として、今後、医療機関に対しどのように働きかけていくべきかと考えるか見解を伺います。</p>	<p>クチン接種後に頭痛や倦怠感が何か月も続き、通勤や通学に支障が生じているなどといった相談が増えてきており、道としては、今後、こうした方々への適切な対応が必要なものと認識しております。</p> <p>なお、相談センターでは、適切な助言や情報提供を行う観点から、相談者からは、その実情等を正確かつ丁寧に聞き取る必要があるため、電話やFAXによる対応を基本としている中、道といたしましては、併せて、ホームページやSNSなど、様々な媒体も活用しながら、ワクチンの有効性や安全性、相談窓口などに関する情報発信にも、しっかりと取り組んでまいります。以上でございます。</p> <p><b>【感染症対策局予防接種担当局長】（ワクチン班）</b>  副反応に係る医療等についてでございますが、道では、ワクチン接種を受けた方に副反応を疑う症状があり、受診を希望する場合には、まずは、接種した医療機関や、かかりつけ医を受診していただき、その結果、医師が専門的な検査や診療が必要と判断した場合には専門的な医療機関を紹介する取扱いとしておりまして、こうした専門的医療機関を二次医療圏毎に1施設以上、全道で35施設を指定しているところでございます。</p> <p>こうした中、身近な医療機関や専門的医療機関の対応につきまして、道の相談センターや保健所に相談等が寄せられた場合には、必要に応じて、道が直接、当該医療機関との調整を行うなどしながら、地域の課題や現状の把握にも努めているところでございます。</p> <p>道といたしましては、副反応が疑われる症状のある方には、まずは身近な医療機関が、お一人お一人の不安に寄り添いつつ、きめ細やかに対応していくことが重要と認識しており、これまで、北海道医師会等の関係団体と連携して、地域の医療機関に、不断に協力を呼びかけてきたところでございまして、今後とも、接種主体である市町村はもとより、関係団体とも更に連携を深めながら、副反応に係る相談体制や医療提供体制の充実に努めてまいります、以上でございます。</p>

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p><b>【指摘等】</b>  不安に陥った方、そういう方への対応としては、一番最初のスタートが大事だというふうに思いますので、道としてしっかり責任を果たしていただけるよう要請をしていきたいとします。</p>	